

科目名	はり実技6							年度	2026
英語科目名	Needle Practice 6							学期	後期
学科・学年	鍼灸科 3年次	必/選	必	時間数	45	単位数	1	種別※	実習
担当教員	森田義之 奥山夕記子		教員の実務経験	有	実務経験の職種		鍼灸師		

**【科目の目的】**

- ・はり実技5で行ったトリガーポイント鍼療法の応用ができるようになる
- ・開業した際に多く来院する疾患について理解、効果を出せるようにする
- ・開業した際に必要となる知識を深く学習し、実践できるようになる

**【科目の概要】**

はり実技5で学習した骨指標、筋肉をより素早くイメージし投射、刺鍼を行い皮下での刺鍼転向法を確実な技術として身につける

**【到達目標】**

- A:はり実5を応用し骨指標、筋肉を実際の人体に描くことができるようにする。  
 B:はり実5を応用し人間の動作分析が出来るようにする。  
 C:はり実5を応用し人体において皮下での鍼先方向を理解し、実践できる。  
 D:はり実5を応用しトリガーポイントに当てることができるようにする。

**【授業の注意点】**

授業日数の4分の3以上出席しないと試験が受けられません。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	全ての骨指標、筋肉を描くことができる	体幹四肢の骨指標、筋肉を描くことができる	筋肉を描くことができる	骨指標を描くことができる	はり実5の骨指標、筋肉を描くことができない
到達目標 B	全ての動作分析ができる	四肢の動作分析ができる	体幹の動作分析ができる	頸部の動作分析ができる	はり実5の運動学における用語が使えない
到達目標 C	目的の筋肉に鍼を当てることができる	鍼を自由に動かすことができる	鍼先を骨に当てることができる	皮下での鍼先方向がわかる	鍼を皮膚面垂直に刺すことができない
到達目標 D	再現痛を出すことができる	関連痛を出すことができる	得気を出すことができる	硬結に刺すことができる	硬結がわからない
到達目標 E	原因筋が見つけられる	運動検査ができる	伸長痛について理解している	収縮痛について理解している	原因が見つけられない

**【教科書】**

自作プリント

**【参考資料】**

**【成績の評価方法・評価基準】**

試験（80%）、当日課題の提出（10%）、出席状況（10%）

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		はり実技 6			年度	2026
英語表記		Needle Practice 6			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 刺鍼法の基礎①	はり実5で行った刺鍼法の復習	1	
			2 膝の筋肉投射①	半腱、半膜様筋、大腿二頭筋を投射できる		
			3 膝周囲筋への刺鍼①	半腱、半膜様筋、大腿二頭筋に刺鍼できる		
2	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 刺鍼法の基礎②	はり実5で行った刺鍼法の確実性	1	
			2 膝の筋肉投射②	大腿四頭筋を投射できる		
			3 頸部筋への刺鍼②	大腿四頭筋に刺鍼できる		
3	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 動作分析	下腿の動作分性ができる①	1	
			2 下腿の筋肉投射①	前脛骨筋、長趾伸筋を投射できる		
			3 下腿への刺鍼①	前脛骨筋、長趾伸筋に刺鍼できる		
4	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 動作分析	下腿の動作分性ができる②	1	
			2 下腿の筋肉投射②	長腓骨筋、短腓骨筋を投射できる		
			3 下腿への刺鍼②	長腓骨筋、短腓骨筋に刺鍼できる		
5	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 動作分析	下腿の動作分性ができる③	1	
			2 下腿の筋肉投射③	腓腹筋、ヒラメ筋を投射できる		
			3 下腿への刺鍼③	腓腹筋、ヒラメ筋に刺鍼できる		
6	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 動作分析	下腿の動作分性ができる④	1	
			2 下腿の筋肉投射④	後脛骨筋、長母趾屈筋を投射できる		
			3 下腿への刺鍼④	後脛骨筋、長母趾屈筋に刺鍼できる		
7	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 動作分析	下腿の動作分性ができる⑤	1	
			2 下腿の筋肉投射⑤	長趾屈筋、足底筋を投射できる		
			3 下腿への刺鍼⑤	長趾屈筋、足底筋を投射できる		
8	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 動作分析	前腕の動作分析ができる①	1	
			2 前腕の筋肉投射①	腕橈骨筋、長橈側手根伸筋を投射できる		
			3 前腕への刺鍼①	腕橈骨筋、長橈側手根伸筋への刺鍼ができる		
9	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 動作分析	前腕の動作分析ができる②	1	
			2 前腕の筋肉投射②	指伸筋、短橈側手根伸筋を投射できる		
			3 前腕への刺鍼②	指伸筋、短橈側手根伸筋への刺鍼ができる		
10	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 動作分析	前腕の動作分析ができる③	1	
			2 前腕の筋肉投射③	指伸筋、短橈側手根伸筋を投射できる		
			3 前腕への刺鍼③	腕橈骨筋、長橈側手根伸筋への刺鍼ができる		
11	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 動作分析	前腕の動作分析ができる④	1	
			2 前腕の筋肉投射④	円回内筋、長橈側手根屈筋を投射できる		
			3 前腕への刺鍼④	円回内筋、長橈側手根屈筋への刺鍼できる		
12	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 動作分析	前腕の動作分析ができる⑤	1	
			2 前腕の筋肉投射⑤	浅指屈筋、深指屈筋を投射できる		
			3 前腕への刺鍼⑤	浅指屈筋、深指屈筋への刺鍼できる		
13	鍼操作応用	刺鍼法の応用	1 動作分析	前腕の動作分析ができる⑥	1	
			2 前腕の筋肉投射⑥	尺側手根伸筋、尺側手根屈筋を投射できる		
			3 前腕への刺鍼⑥	尺側手根伸筋、尺側手根屈筋に刺鍼できる		
14	定期テスト	鍼療法について学習した結果を確認する 指導教員に学んだ鍼灸法を実践する	1 刺鍼法の練習	はり実6で学習した筋肉を投射、刺鍼する	3	
			2 実技試験	はり実6で学習した筋肉を投射、刺鍼できる		
			3 自主練習	今期学んだ技術を理解、実践できる		
15	個別評価	実技試験を個別に講義し今後の振り返りをする	1 刺鍼法の練習	基本的な筋肉を投射、刺鍼する	3	
			2 自主練習	実技試験をふまえ自分の技術レベルを理解できる		
			3 自主練習	後期実技の授業がイメージできる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等